

# 高橋ボデー アジア初・国内 仕様販売を開始

カナダ製ベルコン床トレイラー

高橋ボデー(静岡市、製搬送車「ライプボト高橋秀宜社長、☎054・345・838)は、このたび、カナダのトラウトリバー社

開始した。北米や欧州などで利用されている車種で、今回初めてアジア向けに販売する。荷台の床面がベルトコンベアになっており、ダンブアップせずに積み荷を下ろせる他、正転・逆転の切り替えが可能のため、積み込みの手間も少ない。一般

・産業廃棄物の収集運搬を行うための車両としても注文が入っている。

ライプボトムトレイラーは土砂などの比重が重い物を、ハイキューブトレイラーは木くずなどの比重が軽い物の搬送を得意としている。同社によると、荷下ろし時にはベルトコンベアが回転を続けるため、積み荷を約3分で完全に下ろすことができる特性がありながら、傾斜がある場所でも荷下ろしが可能。温度の高いアスファルト

合材の搬送が可能なら、納入速度にも自信があるこの車両は、近距離を往復するピストン式の仕事で特に活躍できる。

えに、マイナス20度Cでも稼働が可能なタフな車両だという。

国内の産廃搬送を意識したカスタムとして、車長約12.5mの3軸トレイラーとして製造する。粉じんが入らないドラムブレイキや日本の地形に対応できるドイツのサフホランド社製の車軸を採用している。10月中旬には第一号となるユニットを作り、来年初頭には納入する予定だ。

同社の高橋政貴氏は「ダンブアップできない現場や屋内への納入が可能でありながら、



ハイキューブトレイラー  
(写真は国外仕様)

納入速度にも自信があるこの車両は、近距離を往復するピストン式の仕事で特に活躍できる。ベルトコンベアの末端が荷台扉よりも外側にあるため、掃除をしなくても積み荷をきれいに下ろせる点も現場の役に立てるはずだ」と述べている。